

平成25年度「市長と語りあう会」について

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
平成26年2月19日（水）	中西地区振興センター	19:00～20:05	21	4	25

○市側出席者

市長、総務部長、秘書広報室長、広報広聴係長

2 会の概要

○開会（秘書広報室長）

- ・ 会の趣旨説明
- ・ 出席者紹介

○あいさつと市政運営の説明（山本市長）

市の今後取組むこととその現状について重点的に話をする。

(1) 行財政改革

- ・ 昨年12月議会に行革指針、実行計画を示した。
- ・ 行財政改革に取組む背景には、市の財政（歳入面）が益々厳しくなることがある。
- ・ 地方交付税について、市町村合併後10年間は合併前の基準で交付税が措置されているが、今後は段階的に減額されていく。現在の交付税額が今後段階的に減額されていき、5年後には12億円減額となる。
- ・ 12億円は、市のH25年度一般会計の年間予算（約250億円）の5%にあたり、合併11年目からはこの減額が毎年行われることになる。平成32年からも収支均衡が保たれるように努めていかなければならず、特に人件費、物件費、補助費について大がかりな削減に取り組む。
- ・ 平成25年度から平成28年度までの前半4年間で集中改革期間とする中で、平成32年度の8年間で7%削減する。
- ・ 地域の皆さんに特に影響のあるものとして、補助費がある。市民の皆さんに、今一度、ご理解ご協力を願いたい。

(2) 人口拡大計画

- ・ 28日から始まる3月議会で具体的な計画を示す。又、明日の全協で概要版をお示しする予定。平成26年度から28年度まで集中して、市としてあらゆる手段をとっていく。行革の集中改革期間と重なることから、人口拡大を一つの基準として縮小するところは縮小し、打つべきところにはお金を使うという、メリハリをつけていく。このことは市民の方にしっかりと説明していきたい。
- ・ 人口拡大の要素については、社会増減（転入者数と転出者数の差）、自然増減（出生者数と死亡者数の差）に加えて、交流人口拡大もその要素である。交流人口については、一時的に益田市に滞留される方であるが、益田市に来られる頻度が増えれば定住人口にもつながっていく。空港利用促進、観光面、市内での会議開催などを考えて、滞在期間も延ばしていく。
- ・ 社会増のためには、いかに転入を増やすかというU I ターン誘導策が必要。転出を食い止めるには雇用の創出が不可欠。
- ・ 自然増のためには、子育てに要する費用の負担軽減及び健康で長寿につながる施策に取り組む。

(3) その他の重点事項

① 萩・石見空港

東京2便、大阪季節便の新ダイヤの紹介

ア 東京便

- ・ 「羽田発着枠政策コンテスト」の結果により3月30日から2年間の措置として東京の2便

化が決定した。この2便化を一つのチャンスとして、地域の活性化に取り組む。今回の2便化は最後のチャンスでもある。この2年間で実績が上がらず1便に戻ってしまった場合は、今度こそ2便化継続の可能性は低くなる。皆さんに率先した利用の協力をお願いしたい。

イ 大阪便

- ・ 今年も7/18～8/31までの夏季限定運航が決定した。ぜひ空港利用を。

② 山陰自動車道

ア 浜田・三隅間(浜田―西村、西村―三隅)

- ・ 浜田・西村間は平成26年度末に開通見込みで、西村・三隅間は平成28年度末までに開通見込みである。

イ 三隅・益田間

- ・ 平成23年度末に事業化が決定された。今、調査、設計、測量中で、安田、鎌手地区においては昨年秋から地元説明会が始まっているが、何年開通かは決まっていない。今後用地買収が始まる。
- ・ 早期開通のためにも用地買収にはご協力をお願いしたい。何とか、2020年までには、完成したいと思うが。

ウ 萩・益田間

- ・ 萩・益田間の60kmについて、これまでは事業化も決まっていなかった。平成25年度に区間絞り込み調査区間となり、60kmの中のどこを優先するかという調査が始まった。できれば、益田―田万川間から始めて頂きたいと要望していく。
- ・ 昨年夏の豪雨では、国道191号が被災し、災害に弱いことが明らかになった。また国道9号では、連続雨量が200mmを越えると通行止めになる区間があるが、これまで16年間そういう事態がなかったのに昨年は2回もそういう事があった。山陰自動車道が開通すれば、山陰道から県道17号線を通って津和野へ、また須佐からは国道315号線を通って徳佐に通じることが出来ることから、災害時のバイパス(代替)機能も発揮出来ることが再認識された。こうした実状を訴え、早期着工、開通を目指す。
- ・ 近隣市町(萩・阿武・益田)長と協力し事業を進め、平成32年度までの開通を目指し今後も要望していきたい。
- ・ 1月30日に人権センターで、山陰道益田地域座談会を開催した。1番の目的は、市民の皆さんの気持ちを盛り上げていただき、市民の側から国へ訴えていくこと。

③□ クラインガルテン事業について

- ・ 昨年のこの会が開催された時期に計画が立ち上がっていた。その後、井戸水からヒ素が発見され、対策にかかる経費を検討したところ、事業そのものの採算が合わなくなり、中止を決定した。当初、地元の皆さんへの説明不足もあり、混乱を招いたことをお詫びしたい。この事業は、交流人口の拡大に繋がるものだと考える。今後、形を変えたもので検討していきたい。

④□ 中西小学校内田分校の学校再編について

- ・ 地域協議会において、子ども達にとって一番良い環境を検討していただいた結果、最終的に中西小学校への統合についてご理解いただいた。

⑤ 地域自治組織の立ち上げについて

- ・ 地区の運営について、自ら発案・運営し、自己完結していただくという、新しい地域運営のあり方を進めていく。
- ・ 経費については、市から一定のきまった金額を交付し、運営の仕方をサポートする。
- ・ 新年度、二条地区等5つの地区がモデル地区になっているが、将来的には20地区全体での運営が目標。
- ・ 大きな改革であるが、市役所の中でも内容が充分にかたまった状況にないままに地区におろしたという反省点がある。地区の皆さんには、混乱と不安を与えて申し訳ない。新しい地域運営のあり方は、今後、中山間地域にとって必要なことだと考える。市役所内で共通認識を持ちながら、地元の方と話し合いご理解いただき進めていきたい。

(4) 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は、別紙のとおり。

- ① 白上川と雁丁川合流点の改修及び河川内の樹木伐採について
- ② 市道の除草に係る補助金について

- ③ ファクトリーパークの空き地活用策について
- ④ 人口拡大について
- ⑤ 市道雁丁線の補装について
- ⑥ 溝掃除で出た土の収集について
- ⑦ 観光について
- ⑧ 空き家対策について
- ⑨ 有害鳥獣対策について

○ 閉 会 （秘書広報室長）

平成25年度「市長と語りあう会」

開催日時：平成26年2月19日(水)19:00～20:05

会場 中西地区振興センター

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 白上川と雁丁川合流点の改修及び河川内の樹木伐採について 昨年夏、県西部が豪雨となった。中西診療所がある場所、白上川と雁丁川が合流する個所が削り崩され護岸が崩壊した。早急に改修してほしい。 又、市の管理ではないと思うが、白上川内の樹木を伐採してほしい。</p>	<p>① 白上川は氾濫の可能性が高い所になっており、河川の管理は重要だと思っている。 昨年夏の豪雨災害の普及作業は、目に見えて進展していないと感じておられるのではないかと思う。状況や被害額をまとめ、やっと昨年末に発注を終了したが、設計業者や土木業者など建築関係業者は、人出不足等で受注を見合すことが多く、なかなか決まらない状況にある。 なるべく早く、要望にお応えできるようにしたい。</p>
<p>② 市道の除草に係る補助金について 市道の草刈りをしているが、市は補助金額として、1㎡当たり10円、年間1回分の予算しか立ててない。実際には2回以上行っている。河川の除草補助並み(2回/年)に取り扱ってほしい。</p>	<p>② 財政状況が厳しい中ではあるが、地元の要望をしっかりと伺いながら、活用していく余地があれば、対応していきたい。</p>
<p>③ ファクトリーパークの空き地活用策について 現在、8社の企業が立地しているが、太陽光発電の計画を聞いてはいるものの、半分以上の土地が残っている。空き地には雑草が生え、不法投棄も増えている。 危機管理対応として、避難場所として利用できないか。ヘリの発着場を作り、非常食を備えて、安全で安心な地域としてのメリットを活用してほしい。</p>	<p>③ 太陽光発電の誘致についてお話しすると、土地を購入してまでは、厳しいということであった。又、ファクトリーパーク利用の場合、購入の場合は良いが、太陽光発電では雇用に繋がらないという考え方から、承認されなかった。 別事案の話があるが、間もなく良い報告ができるのではないかと思う。 益田市は、災害や地震が少なく、日照時間も長い。県には、松江の原発再稼働の話から、万が一の避難場所として一番離れている益田でと、いう提案はしている。 県からは、国の意向であり県の判断ではないので難しいとの返事があり、ハードルは高い。原発の状況もみながら、粘り強く、交渉していきたい。</p>
<p>④ 人口拡大について 2,020年までに500人増を目指す、ということであった。若者の雇用を行い、市外への流出を減らすことが必要だと思う。 又、空き家の有効利用に力を入れていただきたい。人口拡大に繋がる大きな要素になると思う。</p>	<p>④ 明日(2/20)の全協で人口拡大計画概要を示すことにしている。 県外の人益田へ来るには、住居が必要になる。空き家バンクの登録者を増やす為に、様々な支障となるものをカバーすることができないかなど人口拡大計画の中で示し、進めていきたい。 市としては、高いハードルだが、いろいろな視点から考え、目標の50,500人達成に向け、この旗を掲げて何とかクリアしていきたい。</p>
<p>⑤ 市道雁丁線の補修について 市道雁丁線の補修をお願いしたい。</p>	<p>⑤ 懸案課題である。 担当課からは、要望が上がってくるが、全</p>

<p>⑥ 溝掃除で出た土の収集について 毎年、8月第1日曜日に、環境整備として溝掃除をしている。 担当課の話では、予算がないので市の方では収集できない（委託事業者が収集）為、担当者で対応するという事だった。 益田、吉田、高津地区では対応していると聞く。3地区だけ対応するのはおかしいのではないか。この地区も収集をお願いしたい。</p> <p>⑦ 観光について 観光面の話がないが、清流高津川や柿本人麿など観光面について、どのように考えているか。 大型バスでいけるところもあまりないと思うが…。</p> <p>⑧ 空き家対策について 都会では屋上菜園が流行っている。空き家の紹介では、「田んぼもあります」や「畑もあります」を強調してはどうか。</p> <p>⑨ 有害鳥獣対策について 中垣内も限界集落になった。年寄りは増えるが若者は減っている。今いる人を減らさない対策が必要ではないか。 一方、有害鳥獣は増え続けている。市に財源がないとのことだが、対策について大きめの予算をとってほしい。</p>	<p>体の市の予算が決まっているので、優先順位を付けざるを得ない。 持ちかえって、何とか実施できるように努めたい。</p> <p>⑥ 3地区だけというのは、知らなかった。確認をしてお答えしたい。</p> <p>⑦ 観光についても、人口拡大の大きな要素だと考えるが、まだ十分に活かしきれていない。 4月からは機構改革で観光交流課が力を入れていく。行政だけでなく、観光協会と協力し合って外に向かって能動的に売り出していく。 人口拡大計画の中で、スポーツ大会や会議などの誘致も示しており、力を入れていきたい。</p> <p>⑧ 空き家バンクについて。田んぼや畑があることをPRしているか、今一度しっかり確認していきたい。 貴重なご提案を有難うございました。</p> <p>⑨ 益田市から人が流出しない為には、安心して暮らせる環境作りが重要だと思う。被害について、色々なところからご要望をいただいている。詳細は控えるが、平成26年度から本腰を入れて色々な対策を増やしていきたいと考えている。 又、法律の限界がある。有害鳥獣として指定されているものは駆除できるが、それ以外のものはできないなど、様々な制約がある。国に対して、地元の状況を事あるごとに要望していきたい。</p> <p>午後8時05分終了</p>
---	---

